

こんにちは。自立活動推進部です。自立活動だよりでは、校内の自立活動の取組の様子や自立活動に係るお役立ち情報などを発信していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

自立活動とは



自立活動は将来的な自立を目指し、学習や生活で困ったことに対して主体的に改善・克服できるよう、必要な知識・技能・態度及び習慣を養うことを目的に行います。個々のアセスメントをもとに必要な内容を見極め、授業を行っていきます。

本校の自立活動では、個別指導を基本に以下の①～⑥の内容を中心に行っています。

- ① 保有する感覚を活用するための指導
- ② 日常生活動作の指導
- ③ 文字の読み書きの指導
- ④ 歩行指導
- ⑤ 視覚補助具の活用と道具操作の指導
- ⑥ ICT機器の利活用の指導

★ 自立活動の詳細は本校のホームページをご覧ください。

https://www.kyoto-be.ne.jp/mou-s/cms/?page_id=8984

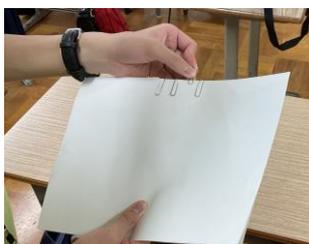
高等部普通科1組1年の自立活動より

高等部では、自分の見え方に係るチェックシート「こんな風に見えています」の質問項目に答えながら、自分の読みやすいフォントや文字の大きさ、明るさやどんな場面で援助が必要なのかを記入します。自分の見え方を理解し、今後の生活の中で適切な支援が受けられるよう、必要な時に自己発信できる力をつける為に取り組んでいます。

また、今後の日常生活で使うであろう動作がどの程度できるかを確認するために、クリップや安全ピン止め、箸操作や折りたたみ傘の開閉などについて「手指操作チェック」をしています。自分の苦手なことを把握した上で、今後の学校生活に前向きに取り組むためにできることを増やしていきます。更に自力で目的地に行けるか、衣食住に関する力が身についているかなどの「生活力チェック」も行います。これらのチェックを終え、生徒自身がつけたい力、つけるべき力を意識して、個々に応じた指導に取り組みます。



折りたたみ傘を
たたんでいる様子



クリップ止めの様子

【こんな風に見えています】



児童編



生徒編

高等部卒業までに使えるようになりたい家電

理療科の教員に聞きました！



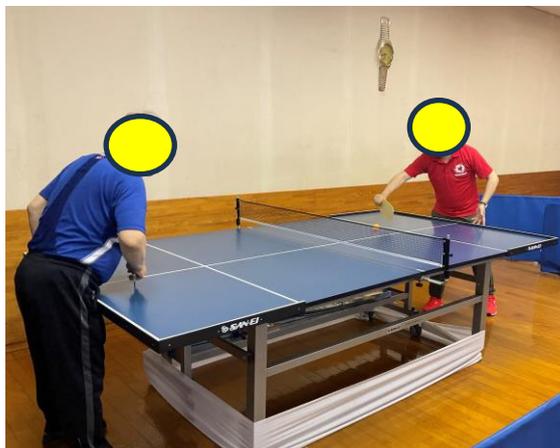
みなさんは家庭で電化製品を使っていますか？今回は理療科の教員に、高等部卒業までに使えるようになると便利な家電は何かを聞いてみました。まず多くの教員が、生活する上で必須である洗濯機、掃除機、電子レンジを挙げていました。これらの家電については、ボタンの数が少なく、シンプルなものを使っている人が複数いました。他には、湯を沸かすための電子ケトル、炊飯器（弁当箱型の炊飯器を使っている人も）、身だしなみを整えるためにドライヤーやアイロンも使えた方がよいと挙げている人もいました。またスマートフォンを使いこなせば、生活の幅も広がり、家電についても遠隔操作で様々なことができると言っていた教員もいました。紹介したこと以外にも、もっと聞いてみたい事があれば、ぜひ理療科の教員に聞いてみてください。

京都市障害者スポーツセンターの紹介

京都市障害者スポーツセンターは、京都市左京区にある障害のある人たちがスポーツに親しむための施設です。スポーツセンターでは、多くの人々が利用しやすいように設備や環境が整えられ、様々なスポーツを楽しむことができます。主要な施設として、室内プール、体育館やトレーニング室、卓球室等があり、団体利用のほか、個人利用もできます。プールでの水泳や水中ウォーキング、トレーニング室にて様々なマシンを使ったトレーニング、サウンドテーブルテニスを卓球室で楽しむことも可能です。受付で申し込めばサウンドテーブルテニス用の卓球台も設置され、スポーツセンターの職員の方がラリーの相手にもなってくれます。その他、各種教室やイベントも開催されていますので、余暇で利用してみたいはいかがでしょうか。



スポーツセンター正面入口



卓球室でサウンドテーブルテニスをしている様子



【HPのQRコード】

